

下山口白石地区まちづくり推進協議会準備会 7月 活動報告

平成30年（2018年）7月14日

下山口白石地区まちづくり推進協議会準備会

代表 小林正典

西日本豪雨で近親者に被害に遭われた方がいらっしゃるかもしれません。心からのお見舞いと早期復旧・復興をお祈り申し上げます。また、自然災害が局地的で甚大になる可能性を気象庁が示唆しております。自然災害への備えには皆様ご留意頂ければと思います。猛暑の到来しておりますが熱中症などに気を付け、有意義な夏をお過ごし頂けますようお願いしております。準備会の活動について下記、皆様にご報告申し上げます。

1. 支持書回収

構想区域497の対象家屋に対し、総数262通の支持書の提出を受け、現在、役場と名簿の確認等の作業を行っております。早期認定に向け、調整をしております。ご支援頂きました方々に改めて御礼申し上げますとともに、進捗別途ご連絡申し上げますことを付言させて頂きます。

2. 特定開発事業説明会

3月17日に説明会が行われた特定開発事業については、施行会社より、建物の高さについては10メートルを下回る形で改修工事を行い、特定開発事業から除外されるよう準備を進めているとの連絡を受けました。近隣住民からは、説明会において建物の高さ以外の問題提起もなされていたことから、これ以外の点についての対応については、現在確認を行っております。

3. 京急不動産マンション建設計画

7月7日（土）に（仮称）下山口プロジェクトについて施工主および業者である京急不動産、ゼクシंक、スタイレックス関係者による説明会が開催されました。

説明会では、開発事業変更協議申出書の変更内容について説明があり、マンションの規模や形状を大きく変更するような内容はなく、これまでの計画を維持しながら、小規模な修正を行うものであるとの説明がありました。説明のあった変更箇所は主に24点で、そのうち、6台分の機械式駐車場を設置する点や造成に係る盛り土が約800m³、切り土が同様に約400m³増える点などが含まれていました。

この他、地下水脈については、地下水状況の明確な調査方法が確立していないため、地下水に特化した調査は行っていないとの説明がありました。また、工事に起因する損害が発生した場合には、因果関係が証明されれば保証の対象とするの話がありました。地下水脈の変更については、堰き止める可能性が絶対ないとは言い切れないものの、極力、地下水の流れを阻害しにくくするとの話がありました。推定されている地下水量や透水路の容量などについての話はありませんでした。地盤強固材の六価クロムについては、実験室で漏出が認められなければ部材を利用し、現場での溶出モニタリングは行わないとの話がありました。

参加者からは、不確実性のあるものについて見切りで実施してしまう危険性や先例とする弊害などが指摘されました。準備会としても、地域住民が安心して暮らせる形での説明がなされ、合意のもとに開発が行われるよう注視して参りたいと考えております。

以上